

球根産地飛躍へ思い新た

新潟県花卉組合、60周年祝う

本県の花であるチューリップなどの球根の生産者らでつくる「県花卉球根農業協同組合」（本所・五泉市）は23日、創立60周年の記念式典を新潟市中央区のホテルで開いた。組合員や取引業者ら約160人が出席、全国有数の球根の生産地である本県で組合が果たした役割を振り返り、一層の安定生産や品質向上へ思いを新たにしていた。

組合は1953年1月に設立された。球根の生産指導のほか、球根の販売や輸出入なども手掛けており、現在、生産者約480人が加盟している。



式典で、豊島正人代表理事組合長が「本県でのチューリップ栽培の歴史は約110年前に始まり、先人の努力があって産地として確立した。今後その歴史をつなぎ、さらに飛躍させたい」とあいさつした。

県花卉球根農業協同組合の創立60周年記念式典は23日、新潟市中央区

このあと、歴代の監事や理事らが組合の活動推進に貢献があったとして表彰を受けた。

2013.5/24

日本農業新聞

BSN 新潟放送

2013年5月23日

当日、民放 BSN新潟放送 夕方の県内ニュースで、創立六十周年の記念式典が紹介されました。

創立60年祝う

新潟県花卉球根農協

新潟県花卉（かき）球根農協は23日、新潟市内で創立60周年記念式典・祝賀会を開いた。生産者やJA、流通関係者ら約160人が参加。産地の歴史を振り返りながら、冒頭のあいさつで、同農協の豊島正人組合長は、約110年前にチューリップが初めて栽培されたことなど、県内産地の変遷を紹介。産地を取り巻く環境が厳しさを増す中で、「専門農協としての役割を念頭に、関係

機関と連携し、安定生産・販売体制の強化に取り組む」と決意表明した。来賓からは、泉田裕彦知事のあいさつを代読した、花角英世副知事が、同県の花きは産出額100億円で、園芸品目全体の15%を占める重要品目であることを強調。引き続き、消費者や実需者の期待にこたえる産地づくりへの尽力に期待を寄せた。同県五泉市の伊藤勝美市長も、同組合の花き振興に果たした役割をたたえらるとともに、さらなる発展に向けエールを送った。

席上、功労賞や感謝状の授与も行い、今後の同組合の発展へ一丸となって取り組むことを確認し合った。